

2008/09/20

## 第4回助成参加報告書

名古屋大学大学院理学研究科構造生物学センター 博士研究員 宮ノ入 洋平

今回、若手研究者渡航費助成金のご支援を受けて、北京で開催されましたEMBO World Practical Course on Structure determination of biological macromolecules by solution NMRに参加させていただきました。

今回の Practical Course は、Chengwen Jin 教授がホストとなり、Peking University 及び Beijing NMR Center で開催されました。特に、Beijing NMR Center には、多くの NMR 装置のみならず、解析専用のコンピュータールームや広いウェットラボも装備されており、研究活動も非常に活発になされていました。

参加者は、世界各地から博士課程の学生を中心に、25 名が集まりました。対して、講師の方も世界各地から 23 名が集まり、小規模ではありますが、参加者一人一人まで行き届いた、内容の濃い講義、演習が為されました。

コースは、約一週間に渡って行われ、多次元 NMR、NMR データの処理法といった基礎から、残余双極子相互作用や緩和解析、さらに巨大分子を対象とした相互作用解析、構造解析法や構造計算の手法、構造の評価など、多くのテーマが取り上げられました。本コースでは、理論講義に加えて、必ず、実習コースが組み込まれていました。理論講義では、複雑な計算式を紹介され、理解に苦むことも多かったのですが、その後の実習コースで、具体的に、何が起きているのかを確認する事ができ、それぞれのテーマについて、知識を深める事ができました。

また、本コースでは、講師の方々の熱意やご尽力に、とても感動しました。どの講師の方も、一つ一つの事柄について、詳細に解説をしていただきました。“この  $180^\circ$  パルスは何の為に利用されているのか？”、“このパラメータは、具体的に何を表しているのか？”など、参加者の質問に対しても、懇切丁寧に解説していただきました。申請者も、拙い英語を使って、拙い質問をさせていただきましたが、解かりやすく解説していただきました。また、講義内容に限らず、実験のコツや、解析におけるテクニックなども丁寧に教えていただきました。

本コースでの最大の魅力は、フリータイムにおける、参加者同士および講師陣とのコミュニケーションにあったと思います。講義や研究内容に留まらず、各国の文化や政治の話でも盛り上がることもあり、通常の国際会議では得られない、様々な情報を得る事ができました。その上で、海外の仲間や研究者と比べ、まだまだ私には、力強さや強引さが足りない事を痛感しました。

最後に、このような貴重な会議に参加することに、ご協力していただきました故京極好正先生、故阿久津政明様ならびにご家族の皆様、日本核磁気共鳴学会の関係者の皆様に、深く感謝いたします。